

平成 22 年 5 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007 ～ 2009
 課題番号：19520112
 研究課題名（和文） 17世紀フランスにおけるイエズス会の挿絵本と絵画の関係についての総合的研究
 研究課題名（英文） General Study about the Jesuit Contribution of the illustrations over the paintings of the Seventeenth Century in France
 研究代表者
 木村 三郎（KIMURA SABURO）
 日本大学・芸術学部・教授
 研究者番号：00130477

研究成果の概要（和文）：代表者である、木村が、イエズス会と版画家プリオとイエズス会図像、並びにオウディウス挿絵の関係。一方で、画家フィリップ・ド・シャンパーニュと版画家、ヴィーリクスとの関係を研究し、デジタル・アーカイブ研究も平行して行い、年度内に成果を得た。これらを基礎にして、平成 22 年度中に、当該テーマについての、海外調査を含めた研究の総括的な論文を、共同研究者、また、連携研究者が執筆する予定である。

研究成果の概要（英文）：Saburo KIMURA, leader of this project realized the research about the Jesuit Contribution of the illustrations over the paintings of the Seventeenth Century in France. It dealt with the printer I.Briot and also the relation between Philippe de Champaigne and the prints by the Wierix Family. He has also studied the method of digital archive for this subject. The collaborators will realize the study in the following year about the subject.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学，美学・美術史

キーワード：イエズス会、デジタル・アーカイブ、フィリップ・ド・シャンパーニュ、挿絵、プリオ、ヴィーリクス

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、長く、イエズス会の中心人物である聖フランシスコ・ザビエルの図像研究に携わってきた。しかしながら、フランス 17 世紀においては、たとえば、1622 年に列

聖を受けた聖人が存在する。こうした存在には、未だに、美術史上の詳しい検討がなされていない。この研究計画においては、これらの聖人の図像研究を、プランタン商会の系列で刊行された挿絵本聖人図像集との比較検討を行うこと研究成果が生まれることが考

えられていた。

一方で、当該共同研究は、オウィディウスの『変身物語』のデジタル・アーカイブ化に成功しており、その研究実績が背景にあった。

2. 研究の目的

(1) イエズス会聖人画像、並びに宗教画の研究。

(2) フランス17世紀刊行のイエズス会関連図書とデジタル・アーカイブの研究

3. 研究の方法

(1) フランスのフランス国立図書館(パリ)、同古文書館、ラ=フォンテーヌ図書館(リヨン)及び、トゥールーズ、オーギュスタン美術館資料室、イギリスのロンドン大学附属ウーバーク研究所(ロンドン)、上智大学附属キリシタン文庫、東洋文庫等に所蔵される仏17世紀までの画像資料・挿絵付資料を調査した。この段階で渡航滞在費の必要が生じた。

(2) イエズス会関係画像資料及び挿絵のある、原書籍(含、写真複製版)の収集に努めた。この段階で資料収集に関する費用の必要が生じた。

(3) 主題及び書籍刊行年に基づく資料の分類整理を実施し、挿絵の画像内容に関する研究を行った。

(4) 17世紀フランスのイエズス会画像との比較照合を行うと同時に、当該作品について文献資料その他による裏付け取得の可能性を探った。

(5) それぞれの調査結果を、主にインターネット上で検討を加え合うと共に、研究代表者が進捗状況を調整した。

(6) 上記の調査内容をそれぞれ個別論文に纏め、各所属機関の紀要等に発表した。

(7) デジタル・アーカイブ研究を推進した。このアーカイブは、研究代表者がプロジェクト・リーダーを勤める日本大学総合学術情報センターの「デジタル・ミュージアム」構想の内に位置づけられ、平成15-17年度の科学研究費補助金を得て既に公開された「17世紀フランスのオウィディウス変身譚挿絵」に連動させた。

4. 研究成果

基本的には、平成19~21年度では、当該テーマに関する基礎研究を実行した。成果物と

しては、代表者としての木村の業績が中心となっている。これらを基礎にして、平成22年度中に、17世紀フランスにおけるイエズス会の挿絵本と絵画の関係についての研究の総括的な論文を、共同研究者、また、連携研究者が執筆する予定である。なお、下記の諸業績と、進行中の研究活動との関連性は、以下の論点に纏めることができる。

(1) オウィディウス画像学とイエズス会画像学の相関性に関する研究

(2) イエズス会画像学と、デジタル画像学に関する研究

(3) フィリップ・ド・シャンパーニュを中心として、イエズス会画像と版画の相関性に関する研究

(4) イグナチウス・ロヨラのテキストと画像に関する研究

(5) プッサンとその周辺の画家における宗教性についての研究

(6) 南蛮絵画におけるイエズス会画像の研究

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

木村三郎「アンドレ・フェリビアン著「フィリップ・ド・シャンパーニュ伝」……一六二〇 四〇年代における宗教画制作を視点に考える」『日本大学芸術学部紀要』2010年、51号、pp.39-54

木村三郎「版画家イザーク・プリオについて……1610-20年代のパリの視覚文化の一面」『日本大学芸術学部紀要』2009年、49号、pp.69-93

栗田秀法「ニコラ・プッサン作《マナの収集》の最近の研究動向」『名古屋芸術大学研究紀要』2009年、30、pp.97-115

[学会発表](計4件)

木村三郎、「西洋の17世紀における<煉獄>画像について……ヴィーリクスとその影響」欧米言語文化学会、2009年12月13日、日本大学文理学部

木村三郎「詩人マリーノと版画家プリオ……プッサンとその初期作品の諸問題」国立西洋美術館、2009年4月4日(招待講演)

木村三郎、アート・ドキュメンテーション
学会研究会発表「西洋近世図像学ドキュメン
テーションの現在」研究会、2008年1月12
日、日本大学芸術学部

木村三郎・安室可奈子・小野崎康裕・栗田
秀典・新畑泰秀・鯨井秀伸、日仏美術学会シ
ンポジウム・「オウイディウス・挿絵・アー
カイブ・・・デジタル時代の図像学を考える」
2007年9月28日、東京、日仏会館、

〔図書〕(計1件)

木村三郎・紅野謙介・佐藤至子・中川裕美・
加茂竜一・川上央・植月恵一郎・丸茂美恵子
他、『デジタル・ミュージアム研究プロジェ
クト・報告書』日本大学総合学術情報センタ
ー、2010年3月、執筆と、編集責任者

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木村三郎 (KIMURA SABURO)
日本大学・芸術学部・教授
研究者番号：00130477

(2) 連携研究者

安室可奈子 (AZUCHI KANAKO)
日本大学・芸術学部・講師
研究者番号：10419749

小野崎康裕 (ONOZAKI YASUHIRO)
川村学園女子大学・人間文化学部・教授
研究者番号：30194608

栗田秀法 (KURITA HIDENORI)
名古屋芸術大学・美術学部・准教授
研究者番号：10367675

新畑泰秀 (SHINHATA YASUhide)
ブリジストン美術館学芸員

鯨井秀伸 (KUJIRAI HIDENOBU)
愛知県立美術館主任学芸員